

国内 IGF 活動活発化チーム第 63 回会合 発言録

2025 年 7 月 15 日

加藤： 皆さんこんにちは5時になりましたが、もう一、二分でお集まりになる方いらっしゃると思いますので、お待ちしたいと思います。そのままお願いいたします。

飯田： はい承知しました。

加藤： それでは IGF ルールで 2 分待つという、その 2 分が過ぎましたので第 63 回の活発化チーム会合をスタートさせていただきたいと思います。皆さんお久しぶりでございます。ありがとうございます。まずいつものスケジュールにより今日総務省から飯田様にご出席を賜っておりますので、飯田様からまず最近のご報告、ご連絡等いただければと思います。いかがでしょうか？

飯田： はい、ありがとうございます。皆さんお久しぶりの方もいらっしゃいますし、役所の方もいろいろ異動があってメンバーが変わったりしてきてますので、またおいおいいろいろご紹介をさせていただこうと思っておりますが、最近の動きとしては当然のことながら皆様、一部の方は現地でもお目にかかりましたけどもノルウェーの IGF がございまして、私ども総務審議官をヘッドに現地で参加をしております。例年と違ってこの夏の開催ということだったので、準備も非常に短い中で、ノルウェーからも準備段階で日本の経験を共有してほしいというようなことがあって、打ち合わせを何回かやったことがありました。どの程度役に立ったかは定かではありませんけども、非常に手際よくやってくれていて、会場はそんなに大きくはないながらも非常に盛り上がって、特に今回参加をした感じとして、やっぱりこれから今動いてる GDC、グローバルデジタルコンパクトの中での IGF の見直しと、それから今年後半の WSIS+20 のレビューですね。これがみんな頭にあるので、IGF を盛り上げて守っていこうという機運が非常に高かったと思います。なので非常に盛り上がりまして、特に Music Night は去年なかったということもあってすごい騒ぎで、延々と演奏していたように思いますけども、セッションも数は少し絞られておりましたが、中身の濃いセッションが多かったんじゃないかと思えます。特にインターネットガバナンスの話ですとか WSIS の話ですとかいうものがそれぞれの視点で開催をされておまして、総務審議官の今川もメインセッションとハイレベルセッションでそれぞれ、ラウンドテーブルで WSIS+20 や GDC ですとか、例年のパターンでもありますが、サイバーセキュリティとかまた今年ですのでこの時期ですので、AI とかそういうセッションに登壇をして、またノルウェー側とも、ノルウェー側も複数の大臣が外務大臣含めて複数の大臣が関わっておりましたのでバイ会談をやったり、他のリレーションともあったりということをしてきております。ノルウェーというと、普段あまりバイでの縁はなかったんですけども、意外と事前から結構接触があった中で、日本の AI とか技術に結構まだ関心を持ってきてくれるということがありまして、彼らは自分たちあんまりデジタル系の技術が進んでるという自覚はあまりないようでして、医療とか福祉とか、そういうところの進んだ自分たちの産業と、日本のデジタルとか AI とかを掛け合わせて何かできるんじゃないかっていうようなことで、ずいぶん熱心な説明があったりしました。今後また何かを展開できれば

いいなと思っはいるんですけども、今のところまだ1回目の意見交換をやっただけで、これからまたうまくいきそうなところを探していきたいと思っておりますので、もし関連が出てくるようであれば皆さんとも議論させていただきたいと思ひます。あと総務省主催でオープンフォーラムを例年通り二つやりまして、今年は当然のごとくインターネットガバナンスとAIということだったので非常に、なんていうんでしょう、集まる人間がやっぱりほぼどこの国も同じ顔ぶれが、ということがあり、その分非常に何ていうか密にコミュニケーションが取れるようになってきているので、ぱっと集まってもぱっと議論ができるという感じを今年は受けました。ほとんど準備できなかったけど、結構噛み合った時、議論になったりとかいうセッションもありまして。全部の国とそういうふうにはいきませんが、他、インドなんかも含めて、結構定常的な関係ができている国が増えてきてるという実感を持って帰ってきております。ということで多分非常に成功したという評価になるんだろうと思ひますし、これが今後のインターン IGF の見直しにはプラスに働いてくれるというふうに考えています。GDC と WSIS の方は、GDC の方は相変わらずフリーの中でAIのところがなかなか進まないというところの議論をやっております、これが秋の国連総会までにどういふふうに着くかというところはまだ予断を許さないところです。Tech Envoy ([デジタル・新興技術室および国連事務次長兼デジタル・新興技術に関する特別使節 Amandeep Singh Gill 氏](#)) も結構ノルウェーにもいましたけども、まだこれからの調整、だいぶ苦勞するんじゃないかと思ひます。WSIS+20 のレビューと GDC がだいぶごちゃ混ぜになってきていて、GDC で議論したはずのことが WSIS でまた蘇ってきたりしてるようなところもあるので、この辺は我々注意して議論をしていきたいと思ひますし、引き続きインターネットガバナンスについてはマルチステークホルダーでボトムアップというのは当然ですけども、今までの IGF で足りなかったところをいかに補ってより強化したフォーラムにしていくかということがこれからの課題だろうと思ひますし、事務局の強化みたいなこともあるかと思ひますので、引き続き、そのコアなグループの一員として日本としても貢献していきたいと思ひしております。[リーダーシップパネル](#)がヴィントサーフのもとでだいぶ活発に今までもやってきて、今回も非常に各メンバーがいろんなところで積極的に議論してくれていたんですけども、リーダーシップパネルですと議論してる課題の一つが visibility というかアドボカシーというか、いかに IGF を世の中にもっと知ってもらおうかということで、これちょっとよもやま話の一つですけども、現地に映画ハリウッド映画スターがいて、皆さんご覧になったかわかんないんですけど、ジョセフ・ゴードン＝レヴィットという、いろんな映画に出ている若い俳優さんが来ていて、彼はAIの関係で特に問題意識があつて参加をされていたようだったんですけども、IGF 事務局でもこういう映画スターみたいな人に IGF アンバサダーになってもらいたいなみたいなことを言ひまして、それ自体がどうなるかはともかくとして、今後そういうことも含めて活動が強化されていけばいいなと思ひます。ということで、ノルウェーについては非常に準備も頑張ってくれて成功したと思ひますし、これが今年後半の WSIS あるいは GDC もそうですけど、議論にプラスに貢献していくと思ひますので、我々も積極的に、これを生かして頑張っていきたいと思ひます。GDC のときからの教訓、最大の教訓の一つとして、マルチステークホルダーコンサルテーションが機能しなかったっていうか、ちゃんとやってくれなかったっていうのがありますので、これは機会があれば言うようにしてしまひて、ぜひオフィスの中ではしっかりとステーク

ホルダー向けコンサルテーションが **meaningful** に実施されることを期待しているところですので、ぜひ皆様からも積極的なご参加をお願いしたいと思います。ちょっと長くなりまして、取りとめもなかったですけども、以上とさせていただきます。

加藤： どうも飯田様ありがとうございました。飯田様への質問ございませんでしょうか？皆さん、大丈夫ですか。いろんなことをご報告いただいたわけですけども、もしあればまた後にでもお願いするとして、今日はスケジュールが結構いろいろと混んでますので次に移らせていただきます。

加藤： 次の **MAG** からの報告ということでこれは加藤から一言だけ申し上げますが、飯田様もし追加いただくことがあればお願いしたいと思います。まず **MAG** は基本的にはノルウェーの会議をやるまでいろいろな企画とかをやってきたわけですけども、私の理解では形の上では今年いっぱい、今年のメンバーが継続して、来年になると 2024 年のときからのローテーションがまた戻るという理解です。ということは、2024 年、昨年末にまだ 1 年目だった人は基本的に後は 3 年なので、また 2 年が復活して 2026 年から前の部分が、継続する人は継続し、新しい人も入ってくるという、そういう形でどんどん決められていくのかなってというのがまず一つ。それから今後 **MAG** としてどういうことをやろうかっていう議論も実は **MAG** の中でもしておりまして、今後の **WSIS+20** のをよく読みながらいろんなコメントを、意見を出していったりというようなことを考えております。その関係で今飯田様が言われたような、リーダーシップパネルと共同で **MAG** のステートメントっていうのを作っておりまして、基本的に **IGF** の今までの貢献とか、**NRI** の重要性とか、マルチステークホルダーの仕組みの重要性とかそういうことを繰り返している内容のステートメントを準備しております。それから飯田様がいろいろご報告いただいたんであまり重複することはないんですけども、**WSIS+20** に関連して、インフォーマルなマルチステークホルダーサウンディングボードっていうのができたっていうのが先日の **IGF** のウェブサイトにも出てたと思います。これはどういうものかという、**IGF** にこれまで参加して行っていた人たちが、この **WSIS+20** にいろいろ意見をいわゆる国連とのいろんな連絡を果たすためにリエゾンの人を選出したということで、10 人、これ **MAG** とリーダーシップパネルの現在のメンバーの中から選別されていますが、合計で 10 人プラスヴィントサーフの 11 人ということだと思いますが、これもご覧になっていただくとアジアからは香港のジェニファーチャンですとか、それからインドのアムリタも確か入っていたと思います。そういうようなメンバーが入ってますね。ということで彼らが **IGF** の今までの関係者を代表して、いろいろと国連側にも意見を言ってくれるということです。**IGF** の会議でも議論がありましたが、この人たち以外にいろいろ意見を聞いてくれる仕組みはないのかっていうのがかなり議論があって、それに対しては当然いろいろ意見書を出してもらったりすることは聞くというそういうような説明があったので、本当にマルチステークホルダーのプロセスが **WSIS+20** でもずっと継続するのかっていうところはまだ少し議論があるのかなというふうに思いました。あと **MAG** で一番議論したことの 하나가、**IGF** の事務局が今後パーマネントにするって継続 **IGF** の継続はほぼ決まりだと思いましたが、**IGF** の事務局をより強化してパーマネントにするっていう議論がいろいろな形でありまして、その中の中心的な議論が事務局へのファンディングの問題です。事務局で今 3 ミリオン US ドル近くのお金が年に必要だという議論がありまして、それを国連の側もある程度年度の予算を取って欲しいとか、さらには民間からいろんな寄付を募ると、そのやり方

をどうしたらいいかっていう議論が結構 MAG でもありましたし、リーダーシップパネルとのミーティングでもありましたし、ファイナンスに関する特別のミーティングっていうのも IGF でもやりました。この辺が MAG からの主な項目かと思います。もしご質問等いただければ、飯田様もし何か付け加えていただくことございますでしょうか？

飯田： いえ、ありがとうございます。私の知ってるのも、今お話いただいたような範囲ですので。はい。

加藤： 飯田様、私含めてご質問ございますか。とりあえずよろしいでしょうか？それではアジェンダに沿って次は NRI ということで、一昨日でしたかね、ミーティングがあったと思います。山崎さんをお願いしてよろしいでしょうか？

山崎： はい。山崎から手短かに報告します。2 回分溜まっております、前回のチーム会合の後に第 5 回の NRI 会合があったんですが、これはもうほぼほぼというか、全て IGF のためのセッションの内容の議論ですので、もう IGF が終わっちゃった今となってあんまり細かく報告してもしょうがないんですけど、直前だったんで細部について決めたということですね。6 月に会合をやるって話あったんですけども直前だったので、コーディネーター会合ではなくて登壇者とか関係者を集めてもちろんコーディネーターは、参加したい人はどうぞっていう感じで最終の詰めが行われました。先週ですね、7 月 10 日に NRI のコーディネーター会合が行われまして。要は振り返りと今後どうするかっていうこと、MAG に似てると思いますけれども、10 日は、スイスジュネーブで WSIS フォーラム、WSIS+20 High-Level Event と前回と今回名づけられてますけれどもその開催中だったのでちょっとかぶっていて、参加者はそれほど多くなかったですかね。IGF 2025 リレストロムでは NRI はよくやったという評価がなされて、今後は WSIS+20 Elements Paper の意見募集に対する共同の意見についてできれば提出したいということが議論されました。あとは NRI 間の連携強化とか NRI 自身の持続可能性。IGF と同様、NRI も結構綱渡りのやっているとありますのでその辺の強化という感じで議論がされました。今後の IGF の存続なり体制は、12 月の国連総会決議に左右される可能性があるということで、各国の NRI は自国の政府なり自国政府のニューヨークに常駐している代表団との連携強化が推奨されました。今後ですけれども WSIS+20 っていう文書見直しで既に案はできているんですが、さらにブラッシュアップしたものが出来まして、ですね、意見提出の締め切りが 25 日なんで、その NRI としては 23 日締め切りでということになっています。あとは各 NRI で知見を共有促進しましょうねっていうことと、各国それぞれの NRI は各国政府と連携強化しましょうねっていうことと、あとユースと連携ということでユース IGF からの提案、これも WSIS+20 の意見提出ですけども、これについて連携しましょうといったことが共有されました。あと資料のところには、NRI が開催したセッションの要約を載せてますけど、ちょっとこれ全部やっていると時間がいくらあっても足りないんで後で目を通していただければと思います。アジェンダのページにリンクしてありますのでご参考までということですかね。私からは以上ですけど、何かご質問ご意見等あればお願いします。それで WSIS+20 に関する NRI の表明意見表明案というのはチャットにリンクを貼っておきました。これとは別に、同一だったかユ

ース IGF から、各 NRI も署名してくれというお願いが来てますけれども、上村さんから(Japan IGF CG 宛)やってきてますがそれとはまた別のものですね。だから 2 本来ていたという感じになります。

加藤：ありがとうございます。山崎さんへのご質問以下、大丈夫でしょうか皆さん。

それではまたこれもまた後であればということで、次に移らせていただくとして、その他会議ということで WSIS+20 の状況を何かご出席とかご存知の方いらっしゃいますでしょうか。それ以外の会議も含めて、何かご報告いただくような内容はないでしょうか？

山崎：山崎から簡単に。何がどういう会議が開催されるか、口頭で簡単に共有しますと、~~5-月-30-日~~ 6月9日・10日ですね。最初のステークホルダー向けコンサルテーションが行われまして、そのちょっと前5月30日には政府だけの会合がありましたけれども、それも確か UN WebTV か何かで中継されたんじゃないかかと思えます。~~5-月-30-日~~6月9日・10日のコンサルテーションは、国連としては初めてタイムゾーンを考慮して2回ありまして、ですから日本からも夜中に起きてなくても聞けるというありがたい開催形態になりました。そのため日本時間で昼間に聞くことができました。その後6月20日、IGF 2025 の直前ですけれども、Elements Paper というのが出されました。これは WSIS+20 に関するどんな要素を議論すべきかのことが書かれた文書ですけども、その案が出されそれに対して、意見募集がなされてその期限が7月25日となっています(当初の15日から延長)。いろんなところが、先ほど挙げた NRI もそうですし、ユース IGF もコメントを出そうとしておりますし、あと我々が属している技術コミュニティでは、連合で意見を出す予定にもしております。その意見募集締め切り後8月にはゼロドラフト、WSIS+20 の議論のたたき台だからエレメンツペーパーよりはもう少し詳しいものが文書として出てくる予定で、これが出た後、また政府での議論とか(他ステークホルダー向け)コンサルテーション/意見募集等が走ると思われまます。詳しくはこの [UN DESA の WSIS+20 のページ](#) に何でも載るようになってますので、ここの左側にロードマップ、表がありまして、今後、何があるかが掲載されてますのでご興味のある方はこちらをご覧ください。URL を(チャットに)貼っておきます。私から、このように公表されてるものだけですけども、加藤さん、飯田さん、もし補足があればお願いできればと思います。

加藤：飯田さん何かございますか？大丈夫ですか。

飯田：はい。はい。大丈夫です。ありがとうございます。

加藤：先ほどのエレメンツペーパーについては議論の項目が書かれているので、IGF の会議でもかなり皆さんそれに沿ってコメントされてましたね。ぜひいろんなところから今回出てくるとは思いますけれども。

山崎：そうですね。IGF もそうでしたし、先週行われた WSIS+20 ハイレベルイベントでも、共同進行役のケニア政府の方とアルバニア政府の方が、このエレメンツペーパーについてコメントを聞くというセッションがありまして、もうどちらも盛り上がってましたね。IGF の方は実際に行ってみました。すごい長い行列ができたのを目の当たりにしましたけれども、一番盛り上がったセッションの一つじゃないかと思いました。以上です。

加藤：ありがとうございます。他に何かご報告いただくようなことございますか。

前村：前村ですけどよろしいでしょうか？

加藤：ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

前村：WSIS+20 に関しては例によってといたしますか、TCCM、テクニカルコミュニティのマルチステークホルダー主義を支持する技術コミュニティ連合ってやつなんですけども、そこから意見募集に応じて、ステートメントが出ていく予定で、それが我々JPNIC は機関決定をしてサインするんですが、出ていくのは来週ぐらいになる予定です。Elements Paper を読んで見てそれで IGF の会場でもその議論をしたんですけども、しっかり書かれてるところはしっかり書かれてますし。何なんだって、わざとなのかと思ったインターネットガバナンス（の節）は、次はマルチステークホルダーでっていうんですけどもなぜかマルチラテラルで、と書いてあって、オープンでインクルーシブでと続くんですけども、それは元々GDC の文言の方がいいんじゃないのとか、そういう内容も入ってまして。とりあえず共有までという。ありがとうございました。

加藤：ありがとうございます。あれは僕も間違いかなと思いますけど、マルチラテラルっていうのはあの場合、国の国対国のっていうイメージが強いので、マルチステークホルダーと全く逆のコンセプトだと思うんですね。

前村：はい。わざとなんじゃないかなと。

加藤：わざとですかね。

前村：いや、知らないですけど、冗談で言ってるだけなんですけど、依然 Enhanced Cooperation とか残ってるんですね。その辺は警戒するんですけどそうですね。以上です。

加藤：ありがとうございます。まとめてご質問ございませんか。よろしいでしょうか？

それではもう一度アジェンダに沿って勉強会に関して、今日小宮山さんからこの後 6 時から最新のセキュリティの問題についてご報告いただきますが、その次回以降も発表者募集中でございますので、ぜひご提案があればよろしくお願いいたしますと思います。この場でもこういうのはどうかっていうのを、今でも言うただければと思います、現時点ではあれですね。山崎さんまだ次回は決まってないですね。

山崎：はいご提案をお待ちして...

加藤：そうですね、はい。もし次回ないとちょっと夏は 1 回休憩になるかもしれませんが、ご提案をお待ちしております。次のアジェンダは APrIGF。これについてはどなたか。ご説明いただく方がいらっしゃいますでしょうか。

立石：立石です。説明するほどのことはないんですけど、はいすいません。山崎さんありがとうございます。別に私が何かやってるわけじゃないんであれなんですけど、今年は IGF の国連の方が 6 月にあったということで、APrIGF が後ろに倒れてて、10 月の 11 から 14 日にネパールのカトマンズでや

るといふことのようにです。これ引っ張っていったお兄ちゃんがすごい元気な人で、この間はちょっと私オスロではお目にかからなかったんですけど、やるかやるからということ今年またカトマンズでやるということになったようです。私自身は実は四つほどこれ（セッションを）提案してまして、一つはもうほとんど加藤さんに書いていただいたんですけど、四つ出しててまだ多分これからだと思っておりますが、セッションが決まってくれば一つ二つ、一つぐらいは何か引っかかってくれるかなというふうな感じです。来年の IGF がいつになるかとかいうことがわからないので、来年の APriGF をどうするかわからない、どういつやるかということについてはまだはっきりしないんですけども、通常であれば7月から9月の前半ぐらいだということのようです。その場所に関するプロポーザルが出て、プロポーザルの受付がもう出ていて、もうだいぶ前から出てたんですけど出ていて、7月の31日が締め切りのようです。セッション（募集）の方は7月4日だったんで何とかそれまでに出したんですけど、場所の方に、ホスト国に関しては7月の31日までということなので、来年ですね日本でできればなという話を、関係者でしていて、総務省さんともちょっとお話したらいいんじゃないのと、反対する方は今のところいらっしゃらなかったの、やりたいなと思ってます。違法有害情報対策とかその他本当に国際連携が必要なことっていっぱい出てきてるとは思うんですが、国内的には全然そういう感じがなく、ただ私もオスロ行ってたんですけど、個人的には ICSA というインターネットコンテンツセーフティ協会という、児童ポルノをブロックするために、URL のリストの作成運用管理団体の代表理事をずっとやってるんですけど、そのオスロで有害情報対策、オンラインカジノの模倣、これは前村さんもそうですけど、もうずっとそういうセッションを探してたんですがあまりなくて、むしろ児童ポルノという言い方自体がもう古臭いっていうのもあるんですけど、その一つ一つの対策というよりは、子供たちのチャイルドセーフティオンラインという形のものはいくらでもあったし、実際そういうふうに、例えばインドネシアの人たちなんかもそういうふうにやっていて、私は知らなかったんですけど日本からの報告とかも出てるんですよ。もう統括的にやらないと限界でしょうと。6月30日にその ICSA の総会があって、私がまた代表理事やることになったんですが、そこでもいろいろ話をするとその ICSA という団体、基本的に児童ポルノのリストの運用管理しかやってなかったんですけど、ぼちぼちこういうやり方も限界だろうと。全体を見て子供権利条約の話とかも含めてやっていかないと無理なんじゃないかという話を、分かっている人たちはみんな分かってくれていて、その ICSA の中でも特に反対する方というよりは、むしろそっちに向いていかなきゃいけないよねという方が多いんですが、日本全体で見ると、そういう意識っていうのはやっぱり少なくて、もちろん個別の何て言うんですかね、性的虐待のことも問題大きいので、そんなこと言ってもっていうのはもちろんあるんですが、とはいえ、全体的に見ていかないと、国際的にもどんどん遅れていっちゃってるしという感じがすごいですね。（2023年）京都のときにはどちらかという、中身の話よりもロジ周りでヒーヒー言ってあんまりそういうゆっくりできなかったもんですから、できれば APriGF を来年日本に呼んで、むしろ日本の関係者をできるだけ京都以上に引っ張り込んで、違法有害情報対策だけじゃないんですけども、子供のことにしてももうちょっと広範なところから物を見ていくようにしないと、それを細かくやんなきゃいけないけど、広いところでやっぱりもっと見る人が増えていかないと国内的にはどうなのかなと。子供のことに限ったことではないですけども、

インターネットガバナンスという意味に関しては、ミクロ的に距離をもうちょっと概観するような運動するきっかけに、APrIGF は来年もし日本が取れば（ホストに）なればいいのかないかなということで、ぜひ誘致したいなというふうに思っていました。というところです。ちょっと取り留めないんですけど。

加藤： はいはい。ありがとうございました。ご意見ご質問ございますでしょうか？ご提案は来年 APrIGF を日本でやろうということですね。

立石： はい。

加藤： デッドラインが7月の末という。

立石： 確か、はい。

加藤： さっきの7月31日と確か書いてあったと思うんです。皆さんご質問とかご意見ございますでしょうか。はいお願いします。

前村： 7月31日のデッドラインになんて言うんですかね。例えば JPNIC は何も言えないです。

加藤： はい。

立石： 31日のデッドラインはしょうがないんであれなんですけど、後から、皆さんがジョインしてくればそれでいいんじゃないかなと思います。とりあえず出しておかないとどうしようもないんで。今のところ私が言えるのは、JAIPA 的には誰も今のところ機関決定はしてないですけど、今のところ誰からも文句言われてないし、あと ICSA の方もお手伝いはするという形になってるんで。どこがやるという形は、とりあえずは申請書レベルではありますけど、斜め読みなんでわかんないですけど、別に主催が加わること自体、協賛なりが加わること自体は全然問題ないと思うんで、今今7月30日は無理だよっていう話でも、その後で加わってくれる分に関しては、AP 側も特に異論はないののではないかなと思いますけども、いかがでしょうか？だんだん生きてる時間が短くなってきたんで、頑張らなくてやらないと、再来年でもいいですけど、ちょっとそろそろ動けるうちに動くのかなという寿命の残りのことも考え始めると、ちょっとつらくなってきたかなという感じがしますけど。

前村： そうですね、APrIGF の secretariat が7月31日に来ないかってのは何もしないよっていうことでもなさそうです。こういうのずれる可能性はあると思うし。後からジョインできるっていうのもそれはもうおっしゃる通りなんですけども、もう一つはできることなら、国内体制が立ってそっちでやりたかったものだなということなんで、ちょっと遅きに、後塵を拝しているってところがあってというわけで、何とも申し上げにくいディスカッションになってますね。なんというか、まずはそういう感触を申し上げるということで、なんですけどすいません。ひたすら歯切れが悪いことを言ってます。

加藤： 前村さん立石さん、活発化チームっていうのは別に法人でもないし、活発化チームの名前で申し込むっていうのではなくて、立石さんが今言われたのは、あくまで JAIPA なり ICSA としてまず申請は出しておくけど、オールジャパンでできればそういう形になるといいと、そういうイメージですか。

立石： 僕もそこまでちゃんとこれ読めてないのでわかんないんですけど、別にいわゆる日本でいう法人格がなくても活発化チームで申し込めるんであれば活発化チームで申し込んで、なんか後ろ盾はな

いのかみみたいな話のときに、JPNIC さんなりが連名にするという形かなとは思ってるんですけど、ここで多分今日決めないと多分走れないので、ラストコールの取り方として 31 日までに間に合うかどうかというのはいちよとあれなんですけど、間に合うのであれば活発化チーム、あるいは APrIGF の側で会議体でもいいですよ、ということで一応後ろ盾に一つか二つかわかんないですけど、三つかどっか団体がちゃんとついていて、そこは面倒見るといっていいというのであれば、その形でも加藤さんがおっしゃるようなことに関しても、私はそれで全然ですから、逆に言うと、私としては、その形としては全くこだわりがないというところなんですけど。

加藤：今の活発化チームであると、決議を取っても何か実際それを主体としてやる責任が誰が取れるかっていう問題が若干あると思うんですよね。多分前村さんの御指摘も、それで機関決定を JPNIC さんも経ないと良いも悪いも言い難い。

前村：そうですね。

加藤：7 月末にいいよって、とても言えない。どういう体制でやるんだって。やっぱり持っていけばそういう話になるんじゃないかっていうこと。

前村：つまり走るっておっしゃいましたけど、何か走るの簡単じゃないってことです。ただそうするとずっと決まらないまま、いつなら決まるんだって。多分僕も今回 IGF の類に行っていて Amrita とか Edmon とか、いつも日本はどうなのっていうのは去年の台湾の時もそうだったけど、聞かれるんですよね。それをみんなに話してみるっていう、そういうことだと思ってるんですけども。

加藤：今もしそういうやり方があるとしたら、立石さんが言われるのは JAIPA さんで ICSA さんなりは、もうやるとなったらコミットするという、そういう前提で、日本の活発化チームっていう名前を使うのがいいのかどうかは別にして、日本の何て言うんですかね、少なくとも JAIPA さん、ICSA さんがそうやって提案してオールジャパンにするつもりで今後も協議をしますっていう形では出せないんですかね。

前村：それは多分 negotiable だと思いますよ。事務局のメンバーの顔を全員知ってるぐらいなんで、私の場合は。いや APrIGF のチェアが OK って言ったら、タイミングとかどうでもいいような、そんな感じですよ。

加藤：だからその辺は前村さんとしてどういう進め方がいいのかっていうのをうまく調整していただくなりして、ただ JPNIC さんの中でも、方向としては日本でやるっていう意見があるのでそういう方向で 31 日までにまず仮のそういう立場を伝えるっていうことでいいんでしょうかね？根津さんお願いします。

根津：所属は JPNIC ってところなんですけど、特に全然前村とかと話してるわけじゃなくて、勉強会があるって思って入ったら活発化チームやっています。

加藤：あと 15 分です。

根津：そうですね。空気読んでないかもしれないですけど、お金ってどのぐらいかかるんですか？これやるのに例えば手を挙げちゃって、なんかすごいかかるんですみたいなときに、誰がどうすんのかなみたいなすごい初歩的なところなんですけれども、ちょっとそこがどんな（ものなのか）。私は APrIGF って行ったことなくてどういう規模で、どんな感じなんですかね？会場もどういうとこでやるとか、そうすると実際かかるものは何なのとか、現実的な、ちょっと母みたいなあれですいません。

立石：2012年に青学を借りて APrIGF をやった実績がありますね。多分今のよりは規模がだいぶ小さくて百数十人だったと思うんで、そのままそっくりとは行きませんが、結構いろいろ面倒見て多分700万いかなかったと思います。700万ぐらい集めてそれで特に赤字にも黒字にもならなかったっていう覚えがあるんですね。多分3日やってるんですけど、3日も夜、懇親会費を全部持ち出しして、会場費は青山学院だったんでほとんどかからなかったと思いますけど、諸々ちょっとすいません。私、決算、全く記憶にないんでわかんないんですが、少なくとも赤字にはなってないんで、百何十人だと700万。その後は晩御飯どう出すとかかそういうので調整すれば、前の感触からいけば700万あれば多めに見てだいぶ価格も上がっていることを考えれば1000万ぐらいで（行けるのでは）。その時どうしたかっていうと、これはいろんなところに協賛をお願いに回りました。実績でいけば2023年の京都の会議（IGF2023のサイドイベント）もかなり大盤振る舞いやったんですけど、それでも1000万も掛からなかったんですよ。JAIPAや他にKCGとかいろんなところをお願いしてあちこちからお金をかき集めてきて、あれも3回懇親会やったのかな。3回懇親会やったりとかいろいろありましたけど、それでも細かいのを入れても、事前に何かやったりとかみんなで発表会やったりとかそういうのもいっぱい入れて、多分そこも1000万いかなかったと思うんですね。なので頑張って1000万集めればお釣りは来るといふ、やり方にもよるとは思いますけども。会場の問題とかそういうのあるとは思いますが、ただ会場を安い目のものを探して。そういう意味でも、今決めてしまっただけ動かないと。年末にIGFがどうなるかわかんないのにどうすんだって話はあるんですけど、早めに行って会場当たりながら、みたいな話かなというような気はするので、今根津さんのおっしゃってることから言えば、お金は頑張って1000万かな。1000万あれば、それなりの格好がつく形にはできるかなと思います。

根津：ありがとうございます。そうですね、7月に手を挙げなければっていうのはそうなんだろうなと思うんですけど、だからあれなんじゃないですか。やっぱり活発化チームはその、何ですかね、それでも活発化チームだと誰が申し込んだのっていう話になっちゃったりすると困るので、1000万を集められる人が申し込んで、それでみんなに声かけてっていうようにしないと、後で何か活発化チームの人申し込んで、活発化チームのチェアは誰でとか言って、後でよくわかんない話になっちゃうのは嫌だなと思って。せっかくやるんだったら、みんなで協力していい機会だって本当にそうだなとは思いますが、なんですけど。だからお金集めるっていう人が申し込んでそこにみんなが賛同するっていう方がいいような気が。全然調整してないので JPNIC としての意見だと思われるとあれなんですけど、私の意見になります。

加藤：皆さんありがとうございます。逆に言うと、今立石さんは JAIPA、ICSA としてはやりたいと思うっていうことを表明されたんですが、JAIPAさん ICSAさんが言っていて、活発化チームとし

ても、もしそれが決まったらそれを支援しますということを、みんなそういう意見があったということではいかなんでしょか。

立石：それは形にはこだわらないと思います。

加藤：前村さんそういう形だと、JPNIC さんの場合不都合ですかね。

前村：いや、何が言いたいかという、手垢がついてしまう言葉ではあるんですけども、もし APrIGF を連れてくるのであれば、それまでに国内体制がはっきりしていてオールジャパンにしたいものだなと思っています。それをどうにかしたいと思っているということです。

加藤：まさにそうです。

前村：そのときにそれができずに、例えば JPNIC も乗っかってないし、いろんなところが乗っかってない。でも APrIGF だっていうのはちょっと職員としての私が許せないなということにして、これはいかんだろうと思います。そこは覚悟、個人的に決めていかなきゃいけないんですが、実は任せといてと言って、今その 1000 万なりを集めてどうにかするっていうことができる人に、やめてくれというところまでは今の感じだと言えないと思うんですよ、というふうな状態です。

加藤：ありがとうございます。

前村：個人的には頑張らなきゃなって。

加藤：非常にそのニュアンスよくわかります。そういう意味で、今前村さんがもういみじくも言っていたんで、一番本当の理想は活発化チームがきちっとオールジャパンとして、自分でいろんなことがコミットできる状態になればいいんだけど、今まだそれが本チームの今後もまだ決まっていなくて、とりあえずはできるという人がその人の名前を出していただいて、だけど、活発化チームの少なくともこのメンバーはそういうことがあればサポートする気持ちがあるぐらいなので。

前村：それ位の、みんなでそういう議論があったということだと思います。

加藤：それがもし認められるかどうかがありますからね。来年日本じゃないかも知れない。

前村：他にはないっていうことになったらあったら、はい。

加藤：それができるならできるだけ活発化チームとしてもみんなに声を掛け合って、それをオールジャパンにするように努力するという、こういうことで今日のところはいかなんでしょか。

堀田：堀田です。

加藤：はい。

堀田：一応、今年のネパールは現地 500 人、リモート 200 人で予定してるってことみたいですね。だから、500 人というところからいけばいいんですけど、2 万円でもいいかなってのは心配な感じの数字ではありますね。このところ、それぐらい集まってるんです。

加藤：最近はどうですかね？去年確かに台湾は全体では国内のイベントも並行してあったので500人ぐらいいたかも知れないですけども、その前のオーストラリアは300人ぐらいだったんですね。現地参加の一番ピークでネパール500人は若干希望的な感じもしますけどどうですかね。

堀田：なるほど。

加藤：だけど500人だとして、先ほどのランチやディナーをどこまで出すかっていうのが費用の点で、あと会場。そういう恒例なのは、大学とかそういうほとんど無料で借りられるところを借りるっていうのがApr(IGF)の場合。それ以外の費用っていうのは、例えば国連のIGFのように、途上国の旅費を持つとかそんなようなのも全くないし、そういう意味ではもちろんボランティアはユースとかあれば別ですけども、そういうのはないから、費用としては、先ほど立石さんが言われた中に収まるような気もするんですけどもね。

堀田：そうですね、かかりそうなのはビザサポートの。

立石：そうですね。

堀田：コストですかね。

加藤：ビザサポートですか。

立石：ビザサポートは確かに前回はイーサイドかな、どっかに頼みましたね。ちょっと費用があれですけど。

山崎：RFPにはビザサポートはローカルホストが責任を持つようにと書いてありますね。

立石：そうですね。意外に外務省が動いてくれなかったりするんで、イーサイドさんに頼んだんですよ。その辺はもうちょっと頑張って政治的に動いて、外務省に頑張ってもらうとか民間ももちろんあんまりそこは良くないんであればイーサイドさんにお問い合わせするというのもありだと思うし、そこがそんな100万200万もかかるかっていうと、それはないと思うんでどこまで丁寧にやるかと。日本でやるんだからそれにしなきゃっていうのはあるとは思いますが、そんなにコストがかかるものではないとは思いますが。はい。

根津：なんか現実的なことばっか聞いているんですが、その会社の当てみたいなのっていうのは何かあるんですか？青山学院大学借りられたっていうのは、何かそのときに何か関係があったとか、今回はどのあたりでとか。

立石：そこはまだです。青学さんもまた当てがないわけではないし、そもそも東京がいいのかっていう話もまだあるので、それも京都だったら私何とか500名は会場の当てがありますけど。

加藤：なるほどね。

立石：はい。京都でもう1回、「また京都か」っていうのがなければ、京都でも。どうしても例えば場所的に500人とか、東京周辺で、お金の問題だけじゃなくて空きの問題もあってないのであれば、今からであれば京都の方は私の方で何とか押さえられると思うんで。あと他に北海道でもいいですし

九州でもいいし、熊本でも、ちょっと熊本にあるかどうかわかんないですけど、そういうところは探せるとは思います。費用の問題だけで。

根津：ありがとうございます。

前村：前村なんですけども、先ほど立石さんがおっしゃった、いろいろと何か所や、やばい状況というのかいろいろと急いで対応していかなきゃいけない状況があって、それに対して、国内でもいろいろとステークホルダーを巻き込んでいかなきゃいけない、広げていかなきゃいけないと本当にその通りだと思います。そのために APrIGF を誘致するとか、国際的に日本で何が起きているかみたいなことをちゃんとと言えるようにしていくっていうのは本当に重要だと思いますんで、そのためには、やっぱり国内の状態も今のこういうふうな規模で何十人かで集まるっていうんじゃなくて、もっと普通のインターネットにはあんまり関係なかった人たちも巻き込んでいくっていうふうなことをやるために体制を言って立てるんだと思いますんで、そこら辺も頑張るって走るっていうことをやっていくんだらうなというふうなちょっと今日思いましたので、進めていきたいと思います。

加藤：ありがとうございます。小宮山さんの貴重なご発表の時間が近づいてますので、今皆さんいただいた意見で、まず立石さんから申し込みの手続きをしていただいて、このグループにその写しは出していただいて、活発化チームとしても、日本 IGF、日本として APrIGF を来年開催することに協力をするという意見があったということで、次のプロセスとしてはそれぞれの団体としてどういうことができるかを持ち帰っていただいて、立石さんと協力してできるだけオールジャパンになるようにこれから進めていくということよろしいでしょうか？

立石：お願いします。

加藤：ありがとうございます。今日のところはこれが活発化チームの何かを拘束するとかっていうことではありませんので、ただそういう気持ちの合意があったということで、次回以降さらにこれも検討させていただきます。今後のスケジュールとか本チームの今後ですけど、次回の打ち合わせ候補として 8 月 18 日、お盆の翌週です。18 日か 25 日ですと皆さんご都合はいかがですか。どちらでもよろしいですか。何かこういう理由で 18 と 25 どちらがいいとかっていうのございますか。

立石：すいません。

前村：もう一度いただけます。

加藤：8 月 18 日の月曜日から 8 月 25 日の月曜日です。

立石：私はできれば 25 日があります。

加藤：ちょっとお盆の直後なので、いろんな準備とかあると 25 日の方が都合がよい方も多いかもしれないんですが、皆さんよろしければ 25 日で次回はよろしいですか。それだけ余裕があると次の（勉強会の）スピーカーも見つかるかもしれないのでそれも検討させていただくと。それから次回、日本 IGF の今年の報告会等をどうするかっていう話もそろそろ議論させていただいた方がいいように思います。WSIS+20 が 12 月に最終的に国連総会で決議されっていうことになるとその様子を見て来

年になった方がいいんじゃないかっていうこともあるかと思いますが、今後のスケジュールとして、IGF-JAPAN の今年の報告会、これを正式にやるとしてどのタイミングがいいかっていうのがあると思います。この10月はAPriIGFがありますし、その前後っていうことですとまだWSIS+20自身が決まっていなくてある意味宙ぶらりんの状態なので、来年1月2月頃にしたらどうかっていう意見もあるかと思いますが、この辺も引き続きご意見いただければと思います。

ということでちょうど6時になりました。何か最後積み残したことでご質問ご意見ございますでしょうか？

山崎：時間がないので手短かにいきますけど、先ほどNRIのところでちょっと触れました、NRIとしてWSIS+20に意見提出するという件は議論したかったんですが、もう時間がありませんのでメーリングリストで引き続きやるしかないかなと思っております。後で何かを出そうと思います。以上です。

加藤：はい。よろしくお願いいたします。あとよろしいでしょうか？それではお待たせしました。小宮山さん。1分超過しましたがけれどもよろしくお願いいたします。【以降第5回勉強会】